

第1回 西宮市緑の基本計画改定検討会 議事録（発言要旨）

■日 時：平成30年9月21日（金）10:00～12:00

■場 所：西宮市 職員会館 1F 大会議室

■出席委員：平田座長、栗野委員、長岡委員

■事務局：土木局長 他13名

■議 事：(1) 緑の基本計画の改定について

(2) 緑の現況について（現況把握）

(3) 前計画の確認と評価について

(4) 計画改定の視点

① 計画改定において考慮すべき近年の社会情勢の変化について

② 計画改定の方針とスケジュールについて

■議事録：

（1）時代認識・市民意識の変容について

- ・人口減少の時代にあつて、都市間競争が激しくなつており、今後、いかに都市の魅力を維持・向上して人を呼び込むのか、ということが課題となっている。【委員】
- ・花と緑の活動は、関わる人の高齢化だけではなく、意識も変化しており、活動は個人から地域へと、さらに活動を通じてみんなとつながってほしいという意識が生まれている。【委員】

（2）現状の問題・課題（防災・防犯）について

- ・猛暑や台風、豪雨が続き、環境の変化に対応した公園づくり、高齢者にも管理しやすい公園づくりが必要と思われる。【委員】
- ・台風等による倒木や、また子どもの安全のため見通しの確保が必要等、防災と防犯の観点から今後の公園や街路樹の在り方を変えていく必要がある。そのための案の一つとして、街路樹が欠損している植樹枠は、高木を植え直すのではなく、中低木程度の植栽でもよいと思う。地域の身近な花壇活動の場とすることも考えられる。【委員】
- ・文教住宅都市のイメージは、教育機関が多くあるだけではなく、人と人とのつながりがあり、人それぞれが自分の役割を認識し、ともに助け合うといった市民意識ではないか。花や緑との関わりはその市民意識を育み、結果として、防犯や防災に役立っていると思われる。街中で花と緑の活動を行う人が多くいて防犯を意識していると防犯効果があると考えられる。【委員】
- ・公園に人がいる、目が行き届くという状況をつくるのが防犯の観点において重要だと思う。【委員】

（3）市民活動について

- ・森の保全活動は活動に関わる人たちが高齢化し、持続可能な活動になるのか、危惧している。一般の方でも関われることを分かってもらえるよう、里山ボランティア育成のセミナーのように、垣根を低くして森の保全活動との接点を持つ機会となる、プラットホームを持つことが大切である。【委員】
- ・西宮市は人の流動性が高く、地域愛が根付きにくい環境であるため、市民が西宮をより良い形にしていこうと活動するきっかけを作る見せ方や取り組みが必要と思われる。【委員】

- ・緑化活動のリーダーの講習会・交流会等は、市全体だけで行うのではなく、各地域において小規模に実施すれば、本庁開催では参加しづらい高齢者の参加も促し、更に裾野が広がると考えられる。【委員】
- ・活動に関心のない人をどう巻き込むかが課題である。【委員】
- ・市民活動は、中央（市役所）を中心としたヒエラルキーではなく、各地域で小規模な活動がたくさんあって市民が日常的に参加でき、各地域での活動が独立するのではなく、お互いネットワークしていく形がより良いと考えられる。【委員】
- ・阪神間にあるって便利というのは、大阪・神戸へのアクセスだけではなく、山に行くのも、川に行くのも、田んぼに行くのも、海に行くのも便利、といった視点で捉えれば、より良い計画になると思われる。【委員】

（４）都市内農地について

- ・南部地域の北の方には生産緑地が残っている。都市内農地を文教住宅都市としてのイメージづくりにいかに役立てていくかが課題となる。一つの案として、西宮市は酒造りの本場であるため、市民に酒米を生産する農地のオーナーになってもらい、市内の杜氏がオーナー用のオリジナル酒をつくるなど、付加価値が高い市民参加による農地保全の取組みも考えられる。【委員】
- ・農業は、「身近にある」、「目の当たりにできる」ということが重要である。身近なところで生産されている、購入できる、場合によっては生産に携われる、といった体験ができればよいと思う【委員】

（５）計画の方向性について

- ・計画の目標は、量的なものではなく、どのような価値を見出していくのか、ということが大切と考えられる。【委員】
- ・改定に当たってはある程度濃淡をつけて、子供・子育て、地域コミュニティの形成など計画を焦点化していくことが必要である。また人口流動の激しい現状や都市間競争など踏まえ、「西宮市であればこれができる、これを目指している」といった独自性があり、「このエリアでは、緑はこういう機能を果たさせる」といった目的を明確に持った計画づくりができると思う。【委員】
- ・高齢者やあらゆる世代の花壇づくりや公園づくりにおいて、その活動がどのように役に立っているのか、また計画のどのような目標を担っているのかが明確になれば、活動の作業が目的化せず、関わる人のやりがいや活動の推進力につながり、気持ちの面でも前向きに携わることができると思われる。【委員】
- ・市民生活とともに緑があるというのがグリーンインフラの一つと考えられる。特に、西宮の場合は、「市民によってつくられ、育てられ、維持されるグリーンインフラ」といった捉え方もできると考えられる。【委員】
- ・数値目標だけでなく、具体的な取組みにより、実態としての緑の文教住宅都市を表している計画ができるのではと考えられる。【委員】
- ・今回の議論を踏まえると、計画の方向性は「人と人とのつながりを花と緑を通じた各地域における身近な活動により育てていく、そのつながりに関わっていることで文教住宅都市としてのグリーンインフラも育てていく」ことが重要と考えられる。【委員】

以上